

株主の皆様へ

---

# 第44期 報告書

平成19年4月1日～平成20年3月31日



立山黒部貫光株式会社

## 株主の皆さまへ



代表取締役社長 中村 憲史

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より当社ならびに当社事業に対し、格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

平成19年度のわが国経済は、輸出の増加や設備投資の拡大により、引き続き緩やかに成長しているといわれておりましたが、実感に乏しく、米国のサブプライムローンの信用不安に端を発した世界経済の減速化傾向や、株価の低迷、原油や原材料価格の高騰等により、先行きへの不安が払拭されない状況が続きました。

観光業界では、景気回復の一方で個人所得の伸びは小さく、また、異業種による参入や観光ニーズの多様化、地域間競争、インターネットを媒体とする激しい価格競争等、事業環境は一層厳しさを増す状況にありました。

こうした中、平成19年度の立山黒部アルペンルートは、3月に発生した能登半島地震、7月の中越沖地震の風評による影響、また長梅雨、台風などに相次いで見舞われ、入り込み合計で955千人と、昭和61年以来継続してきた100万人の入り込み数を22年ぶりに割り込む、大変厳しい結果となりました。その一方、海外のお客様は、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC)や富山県の招聘事業と連携したPR活動が功を奏し、台湾からの「富山チャーター便」の増便や定期便が好調に推移したことにより、初めて10万人を超えることとなりました。

20年度の営業に当たりましては、19年度の営業成績に対して厳しい危機感を持って取り組み、地震による風評を払拭するとともに、営業力の強化とお客様へのサービス向上によって、入り込み人員の100万人台回復を図ってゆかねばならないと考えております。

そのためには、近年漸減傾向にある国内旅客数の回復に向け、お客様の増加につながる提供サービスの充実に加え、旅客の個人化に対応したエンドユーザー向けの宣伝PRの強化、新たな割引きっぷとして「新ファミリーきっぷ」・「大観峰得々きっぷ」・「美女平再発見きっぷ」の発売、物販事業の収益力強化などを重点に積極的な誘致施策を展開して参ります。

また海外客誘致につきましては、VJC事業および県の招聘事業との連携の継続強化を基本に、各国・各地域の実情に合わせたきめ細かな営業戦略と、旅行商品の開発によって、海外客の一層の誘致と、個人でも安心して訪れることができる観光地の構築に力を入れて参ります。

ホテル事業につきましても、運営形態の更なる見直し等により、経営の一層の効率化を図り、収支の改善に努めて参ります。

なお、あらためて申し上げるまでもなく、運輸事業・ホテル事業を営む当社にとりまして、安全の確保は当然の責務であり、安全運行・施設設備の安全には今後とも万全を尽くして参ります。そのためには日常の点検と整備を徹底し、旅客に信頼され安心、信用してご利用いただけるよう努めて参ります。また、20年度につきましても、関係機関のご協力により、4月10日部分開通、4月17日全線開通となりましたが、今後とも立山一帯における旅客の安全と環境保全ならびに自然保護に対する理解の周知徹底を行い、開業時期の安定的継続を図って参ります。

今後、各観光地間の競争はますます激化するものと見られますが、特に本年は7月に東海北陸自動車道の全線開通を控えており、これによる影響につきましても、今後業界および観光客の動向を注視して参りたいと存じます。

立山黒部アルペンルートは、創業者である故佐伯宗義初代社長が立山連峰の障壁を貫き、東西の交流を実現すべく、その第一歩を踏み出してから、既に半世紀を経過いたしました。

これからも、世界に誇る国際山岳観光地「立山黒部アルペンルート」ブランドの確立に全力を傾注するとともに、株主の皆様方のご期待にお応えすべく企業価値の向上を図って参る所存であります。

また、創業以来一貫して掲げております「安全確保」と「大自然の環境保全」という命題につきましても、更なる改良改善に努め、安全快適で環境に優しいアルペンルートを構築して、地域の振興に寄与して参りたいと考えております。

今後とも、株主の皆様より一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

## アルペンルート クローズアップ

### 自然保護・環境保全への取り組み

当社の経営基盤である立山黒部一帯は、自然公園法による中部山岳国立公園の特別保護地区および特別地域に含まれます。立山黒部アルペンルートの建設にあたっては、自然景観を損なわないよう、また自然に与える影響を最小限に抑えるよう細心の配慮のもと進められました。当社では、昭和46年の全線開業後においても、一貫して自然保護と環境保全を最優先課題に掲げ、立山の大自然を永久に守り伝えるため努力を続けています。下の二つの乗り物も、その観点から導入されたものです。

#### 立山トンネルトロリーバス（室堂～大観峰間 3.7km）

立山トンネルにおいては、昭和46年4月より一般乗合旅客自動車運送事業を運営してきましたが、昭和50年代中頃から観光客増加に伴いバス運行数も増えたため、排出ガスによる環境への影響を考慮し、従来のバスに代わる交通手段の検討を重ね、トロリーバスの採用を決定しました。平成5年6月1日に工事着工、平成8年4月23日に営業開始しました。ちなみに、国内で最も標高の高い地点を走る鉄道（無軌条電車）です。



#### ハイブリッドバス（美女平～室堂間 23km）

立山黒部アルペンルート内で、唯一残された非電化区間である立山高原バス路線においても、自然環境を考慮し、平成10年7月よりハイブリッドバスの導入を順次進めています。このハイブリッドバスは、立山特有の急勾配や厳寒期の気象状況に対応できるように幾度の走行試験を重ね開発された高出力型ハイブリッドバスで、ディーゼルエンジンと電気モーターの併用により燃費を抑え、黒煙、NOx等の排出ガスを抑制しています。

# 平成19年度事業概況

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

当期の立山黒部アルペンルートは、前年同様、4月10日に、富山側は立山～弥陀ヶ原間、大町側は信濃大町～室堂間が営業を再開し、4月17日には、立山～信濃大町間が全線営業再開となり、11月30日まで営業いたしました。

当期の営業の経過といたしましては、3月25日に発生した能登半島地震の風評等により4、5月に入り込み数が大きく落ち込み、大変厳しいスタートとなりました。6月以降、個人のお客様は前年並みに回復したものの、7月16日に再び発生した新潟県中越沖地震・長梅雨・台風が重なり、団体のお客様は、最盛期の7月、8月とも振るわず、また紅葉期においても低調に推移いたしました。

この結果、当期の入り込み人員は富山側487千人（対前年94%）、大町側468千人（対前年93%）、合計955千人（対前年93%）と、昭和61年以来継続してきた100万人の入り込み数を22年ぶりに割り込む、大変厳しい成績となりました。

また内訳を見ますと国内のお客様が840千人（対前年90%）に対し、東アジアを中心とした海外のお客様は、国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン」や富山県の招聘事業と連携したPR活動が功を奏し、台湾からの「富山チャーター便」の増便や定期便が好調に推移したことにより、115千人（対前年125%）と初めて10万人を超えることとなりました。

以上により当社区間（立山～黒部湖間）の輸送人員は、鋼索鉄道線（立山ケーブルカー）704千人（対前年85%）、自動車線791千人（対前年90%）、無軌条電車線719千人（対前年92%）、普通索道線757千人（対前年93%）、鋼索鉄道線（黒部ケーブルカー）777千人（対前年93%）となりました。

この結果、当期の運輸収益は、鋼索・索道・無軌条電車事業28億19百万円（対前年91%）、自動車事業10億39百万円（対前年91%）となりました。

宇奈月国際ホテルにつきましては、4～6月や秋の紅葉期はほぼ順調に推移したものの、夏期は前年を下回り、冬期に入っても団体客の不振などにより予約が伸びず、年間では昨年を若干下回る結果で終了いたしました。その結果、構内販売その他事業とあわせた付帯事業の収益は、15億57百万円（対前年90%）となった次第であります。

以上全事業の営業収益は54億17百万円（対前年91%）となり、営業外収益61百万円を加えた総収益は54億78百万円（対前年91%）となりました。

次に営業費につきましては、人件費、物件費の圧縮など経営全般にわたる効率化に努めた結果、営業費合計は53億48百万円（対前年96%）となり、これに営業外費用78百万円を加えた費用合計は54億26百万円（対前年96%）となりました。

以上により、当期の経常利益は52百万円となり、これに特別利益として有価証券売却益1億円、および新たに役員退職慰労引当金の計上等による特別損失60百万円、また法人税ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減して、当期純利益は18百万円を計上することとなりました。

## 運輸営業成績表（平成19年度）

| 項 目    |    | 鋼索鉄道線<br>(立山ケーブルカー) | 前年比<br>% | 自動車線<br>(立山高原バス等) | 前年比<br>% | 無軌条電車線<br>(立山トンネルトローリス) | 前年比<br>% |
|--------|----|---------------------|----------|-------------------|----------|-------------------------|----------|
| 営業キロ程  | キロ | 1.3                 | 100      | 82.5              | 100      | 3.7                     | 100      |
| 営業日数   | 日  | 227                 | 99       | 343               | 101      | 235                     | 100      |
| 旅客輸送人員 | 人  | 703,504             | 85       | 790,886           | 90       | 719,263                 | 92       |
| 旅客運輸収入 | 千円 | 401,859             | 85       | 1,034,441         | 91       | 1,169,760               | 92       |
| 運輸雑収   | 千円 | 2,834               | 107      | 5,521             | 96       | 2,724                   | 113      |
| 収 益 計  | 千円 | 404,693             | 85       | 1,039,963         | 91       | 1,172,484               | 92       |
| 車両走行キロ | キロ | 26,234              | 94       | 675,797           | 100      | 109,631                 | 95       |

| 項 目    |    | 普通索道線<br>(立山ロープウェイ) | 前年比<br>% | 鋼索鉄道線<br>(黒部ケーブルカー) | 前年比<br>% |
|--------|----|---------------------|----------|---------------------|----------|
| 営業キロ程  | キロ | 1.7                 | 100      | 0.8                 | 100      |
| 営業日数   | 日  | 235                 | 100      | 235                 | 100      |
| 旅客輸送人員 | 人  | 757,200             | 93       | 777,327             | 93       |
| 旅客運輸収入 | 千円 | 736,096             | 92       | 502,495             | 92       |
| 運輸雑収   | 千円 | 2,050               | 111      | 1,416               | 109      |
| 収 益 計  | 千円 | 738,146             | 93       | 503,912             | 93       |
| 車両走行キロ | キロ | 40,402              | 97       | 15,907              | 97       |

## 構内販売その他営業成績表（平成19年度）

| 項 目  |    | 構内営業    | 前年比 % | 賃貸収入   | 前年比 % |
|------|----|---------|-------|--------|-------|
| 営業収益 | 千円 | 838,252 | 84    | 70,000 | 100   |

## ホテル営業成績表（平成19年度）

| 項 目      |    | 宇奈月国際ホテル | 前年比 % |
|----------|----|----------|-------|
| 営業日数     | 日  | 365      | 100   |
| 宿泊人員     | 人  | 29,432   | 99    |
| 一日平均宿泊人員 | 人  | 81       | 99    |
| 営業収益     | 千円 | 649,693  | 98    |
| 基本利用     | 千円 | 510,137  | 98    |
| 追加飲食     | 千円 | 41,176   | 101   |
| 施設利用     | 千円 | 32,506   | 97    |
| 売 店      | 千円 | 58,102   | 94    |
| そ の 他    | 千円 | 7,771    | 97    |
| 一日平均営業収益 | 千円 | 1,779    | 98    |

## 財産および損益の推移

| 項 目            |    | 第41期<br>(平成16年度) | 第42期<br>(平成17年度) | 第43期<br>(平成18年度) | 第44期(当期)<br>(平成19年度) |
|----------------|----|------------------|------------------|------------------|----------------------|
| 営業収益           | 千円 | 3,984,580        | 4,469,569        | 5,969,102        | 5,417,146            |
| 当期純利益(損失)      | 千円 | 209,587          | △449,140         | 125,166          | 18,381               |
| 1株当たり当期純利益(損失) |    | 25円19銭           | △51円2銭           | 13円48銭           | 1円99銭                |
| 総 資 産          | 千円 | 11,149,339       | 14,294,496       | 13,964,387       | 12,572,530           |

(注)第42期(平成17年度)につきましては、平成17年10月1日に立山開発鉄道㈱と合併いたしましたので、上期業績(合併前)と下期業績(合併後)を合計したものを記載しております。

# 平成20年度の取り組み

## 1 国内旅客の回復

19年度は開通直前の3月に発生した能登半島地震、7月の中越沖地震の風評をまともに受け、特に国内旅客につきましては、シーズンを通して低調に推移いたしました。また近年、国内旅客数が漸減傾向にあり、20年度入り込み人員100万人台回復には、この国内旅客数を19年度の84万人から90万人台へ回復することが喫緊の課題であると考えております。このため、まず、4・5月の落ち込みの回復を図るスタートダッシュが重要と考え、冬期間から活発なセールス活動を展開して参りました。

また、今年は、昨年の地震による不安、風評を払拭することはもちろんであります。また、鉄道、バス、航空などの各社、大手旅行代理店との連携をこれまで以上に重視するとともに、アルペンルートを組み込んだ旅行商品の造成にあたり、立山の魅力をより体感できる企画の提供など、提案型セールスを推進して参ります。

また、当社では訪れていただいたお客様が快適に旅を続け、より感動を持ってお帰り頂けるいわゆる「顧客満足度の向上」がリピーターの増加や更なる誘客につながる。と考えており、利便性重視のダイヤ改正、レストラン食事の向上のほか、大自然をより身近に感じていただくための体験型施策として、昨年に引き続き定期観光バス「たちやま」の運行、高原バスの景勝地での一時停車など、PR効果、集客が期待できる自社での企画・イベントの増加、充実を図って参ります。

さらに旅客の個人化に対応してホームページや携帯サイトのリニューアルを含むエンドユーザー向けの宣伝PRを強化するとともに、会員制度のアルペン倶楽部の充実や、気軽にアルペンルートの魅力に触れていただくための「得々きっぷ」として新たに「新ファミリーきっぷ」、「大観峰得々きっぷ」、「美女平再発見きっぷ」を現地で発売するなどの施策を推進し、ここ数年マイカー利用や小学生登山などにより増加傾向が見られる地元からの誘客にも力を入れて参ります。

## 2 海外客の更なる誘致

海外客誘致につきましては、各国での積極的な営業活動を展開するとともに、国の観光立国行動計画に沿った「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(VJC)事業と、富山県の海外客招聘事業とも連携し、東アジア、特に台湾・韓国・中国(香港)からの観光客の誘客に努めて参りました。その結果、海外客の入り込み数は年々増加し、平成19年度におきましては115千人と初めて10万人を超えることとなりました。

今後は、上記の地域に加え、タイ、シンガポールなど新たな市場の広がりが予想され、VJC事業および県の招聘事業との連携の継続、強化を基本に、各国・各地域の実情に合わせたきめ細かな営業戦略と、旅行商品の開発によって、海外客の一層の誘致

を図って参りたいと存じます。また、一人でも安心して訪れることができる観光地として外国人にもわかりやすい車内放送や案内看板などにつきましても一層の整備充実を進めて参ります。

### 3 輸送・宿泊施設の安全確保

運輸事業・ホテル事業を営む当社にとりまして、安全の確保は当然の責務であり、安全運行・施設設備の安全には今後とも万全を尽くして参ります。近年、重大事故・偽り等の不祥事が相次いでいるところから、お客様の安全に対する関心が高く、会社も安全に対する社会的責任が厳しく問われております。当社では、日常の点検と整備を徹底し、旅客に信頼され安心、信用してご利用いただけるよう努めて参ります。

### 4 物販事業の収益確保

物販事業につきましては、近年、旅客数の減少以上に減収傾向が見られます。20年度におきましては、商品開発、店舗の見直し、運輸事業との連携等によって、購買単価のアップを中心に収益力の強化を図って参ります。

### 5 早期開業の安定的継続

20年度の営業再開は、お陰様で関係機関のご協力ご配慮を得て、昨年に引き続き、4月10日に大町側は信濃大町から室堂まで、富山側は立山から弥陀ヶ原までの部分開通、4月17日に全線で営業を再開いたしました。早期開業にあたっては、昨年と同様、厳冬期の立山一帯における旅客の安全と環境保全ならびに自然保護に対する理解の周知徹底を行い万全を期して参りました。

これからも自然公園法の目的に添い、「自然にふれあい、自然のすばらしさを知ってもらえるよう」観光と環境保全の調和を図り、関係機関と連携して立山黒部の大自然を広く紹介して参りたいと存じます。

### 6 ホテル事業の経営効率化

宇奈月国際ホテルにつきましては、昭和62年の開業以来、ホテルの持つ機能性と和風旅館のあたたかさを取り入れたリゾートホテルとして特色あるサービスを提供して参りましたが、個人消費の低迷や旅行形態の変化等の中で、営業環境は年々厳しさを増しております。これまでもアルペンルート事業における当ホテルの存在意義とホテル開業時からのコンセプトを活かしつつ、収益性の向上のための積極的な誘致活動と経費の節減に努めて参りました。今後とも運営形態の更なる見直し等により、当ホテルの持つ快適性やサービスを維持するとともに、経営の一層の効率化を図り、収支の改善に努めて参ります。